

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

令和7年5月

妙福寺保育園 うめ組（5歳）

1. 活動のテーマ 「春の草花」

- ・春から初夏にかけての季節の移ろいに気が付き楽しむ。
- ・葉には様々な形、感触、匂い、色、葉が触れ合う音があることに出会い馴染み親しんで愛着を持つ。
- ・グループで探し見つけることで共同する楽しさや他者との感覚の違いに気付く。
- ・色々な発破で楽しみながら自分らしく表現することを楽しむ。

子ども達の中に、園庭や境内に花がたくさん咲いていることに目を向けたり、葉に触れ感触や色の違いに気が付いたりする姿が見られた。そのため、それがなぜなのかを考える思考力を養っていきたいと思った。また、活動を通して子ども同士が互いに気付いたことや感じたことを言葉で伝え合ったり話し合ったりして欲しいと思った。集団遊びが盛んになっているため、友達と活動を共に行うことで協同性に繋がると感じた。以上の理由から春の草花をテーマとして活動することとした。

2. 活動スケジュール

令和7年4月から令和7年5月まで2ヶ月間

- ①園庭での草花探し
- ②押し葉作り
- ③ばけばけ葉っぱ
- ④花びらを数える
- ⑤色・大きさ比べ
- ⑥園庭の木々の種類を知る(木1本1本に名前の札を付けていった)
- ⑦葉っぱじゃんけん
- ⑧色水作り
- ⑨花の観察
- ⑩葉っぱの種類分け
- ⑪境内の草花探し
- ⑫葉っぱで縫い物

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子どもたちが使いたいものを自由に使えるよう、花、プラスチック容器、R1容器（透明PET瓶）、空き箱、画用紙、テープ、ボンドなどを用意していった。種類分けした葉を画用紙に貼ったものを掲示したり、その活動の様子を写真を貼り出したりすることで関心が持てるよう、室内でも環境を整えていった。花びら入りのボトルは、作った後に飾るスペースを作ったことで自由遊びの際にも手に取れるようにした。画用紙も数色用意し、各自が選びながら葉っぱ比べや形作り等を楽しめるようにした。戸外で制作をする際には、集中できるように、子どもたちの手に取りやすい位置にテープや素材を置くことを心がけた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

はじめに、園庭にある様々な木や草花の葉っぱを各自集めて集合し、葉っぱ比べを行った。葉によって色や大きさ、形が違うということに目を向けた後、実際に触り、感触の違いを楽しみ、種類分けを行った。また視覚的に分かりやすくするため画用紙に葉っぱを貼り付けていき、それらをクラス内に掲示していった。絵本を通して葉っぱ数枚で動物や宇宙人、人等を作る活動も広がっていった。花を用意すると花びらを使って色水作りを行ったり、花びらの数を数えたりする姿が多く見られていた。花を使った色水作りでは、でき上がった水を飾ることができるよう R1 容器に入れていった。愛着を持ち、様々な色を作り出すことを楽しんでいた。園庭の木々を知る活動を取り入れたことで、普段何気なく触れている木の特徴やその葉についての理解を深めることができた。子ども達から「境内の木についても知りたい」という意見が出たため、境内の葉っぱ探しへ行った。園庭では見られない大きさの葉っぱや色の濃さなどに目を向けることができていた。またバンペイユの葉っぱに松の葉を刺して縫物のようにして遊ぶ姿も見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

保育者が様々な葉っぱや花に触れながらそれらを集めていると、その姿を見て興味を持った子が集まって来た。集めていく中で大きさや形に着目し、気が付いたことを友達と共有する姿が見られた。子ども達の中で分類分けが始まったため、画用紙を用意し似た形ごとに分けて貼ることができるようにしていった。貼る際に葉に触れながら、サラサラ、チクチク、フワフワ等の感触を感じる発言があった。形だけでなく、感触ごとの分類分けもできるように箱を用意すると、より多くの様々な葉っぱを集めていた。絵本を見て葉っぱ遊びがさらに広がり、葉っぱを画用紙に張り付けていき動物や人、道具等に見立てて作り上げていた。作った作品はクラス内に飾り、いつでも見られるように環境を整えた。友達作品を見て真似したり、また新たな作品作りに広がっていったりした。すり鉢を使った色水作りでは、どのような擦り方をすればより濃い色が出るか試行錯誤し友達と共有していた。色水づくりは花びらだけでなく、葉っぱも使って行っていた。花びらは1枚ずつ枚数を数えたり、画用紙に貼り付けたりして可視化できるようにしていった。一枚一枚のきれいさをより細かく見ため虫眼鏡を用意したことで集中して見ていた。葉っぱを使った縫い物は、ただ縫うだけでなく、三つ編みのように模様を作ったり、バンペイユの花を差し込んだりしていた。





5. 振り返り

子どもたちは活動を通して様々な花や草の違いに目を向けながら、関心を持ち気に入るものを探したり触れながら遊んだりしていた。友達と話し合う機会を設けたことで、気付いたこと、試したこと、考えたことや作ったものを聞いたり発言したりすることができた。それぞれが興味のある遊びに集中して遊ぶ姿が見られていた。触ったり、見たり、聞いたりすることで五感が刺激され、そこから子ども達のなかにまた新たな気づきが生まれていた。子ども達から出てきた発言を書き起こして見えるように貼ったり、タペストリーを作っていたりしてもよいということを職員間で共有していった。また、例年の年長が花をそれぞれ調べ、オリジナルの図鑑を作っていたため、そこに載ってない新たな花探しをして図鑑をより充実させていくことも楽しいのではないかという案も出た。活動を通して、五感を使いたくさんのことを感じ取る子どもの姿を見ることができた。